

わたしたちは
こんなことをしています

ファミリーサポート・緊急サポート
子育て

●ファミリーサポートは
子育てを助けてほしい人（依頼
会員）の要望に応じて子育てのお手伝い
ができる人（援助会員）を紹介します。相互
の信頼と了解のうえで一時的にお子さんをお預か
りするシステムです。（松阪市からの委託事業）
電話 0598-60-1820

●緊急サポートは
病児や、病後児、宿泊預かり
などの援助をしています。
電話 0598-20-1938

あしかが
映画・葦牙

11月19日（金）
松阪コミュニティ文化セ
ンターで3回上映。虐待を
受けた子どもたちが力強く
再生してゆくようすと、それ
を支える大人たちのドキュ
メンタリー。

参加費 大人1000円
中学生以下 500円

ひろば（みんなの居場所）

●ほっとスペース
日当たりのよい事務所の
1階を開放しています。おもちゃ
や絵本もあるので子育ての息抜きや
情報交換、中高生の寄り道の場所としてご
利用ください。（月・火・木・金）

●絵本の読み聞かせ&ほっとカフェ
月に1回親子で絵本や手遊びを楽し
んだあと、お茶とおやつでほっと
一息いれませんか？

チャイルドラインは、
18歳までの子どもの声を聞き、
心を受けとめる子ども専用電話
です。松阪子どもNPOセン
ターは松阪地域でチャイルドライン
を実施しています。

全国統一ダイヤル
電話 0120-99-7777
（月～土 16:00～21:00）

チャイルドライン

子育て

子どもの権利を考える
市民委員会

子育て子育てを支援する行政・団
体・さまざまな人が手をつなぐ市民委
員会です。子どもの権利条例づくりを
柱に、子育てをささえる地域
社会をめざして、取り組みをしていま
す。

人形劇「あなたが生まれるまで」
の公演企画もここから生まれました。

子育てファミリー

10月16日（土）
子育てを支援する各種団
体が、三重中央大学のキャン
パスに集い、ネットワーク作
りと交流を深めることを目
的としたイベントです。

ゆきあそび
ツアー
もあるよ！
2011年
1月29日（土）

いろんな方から
ご支援やご寄付に
ささえられています。



（特）松阪子どもNPOセンターは
子育て・子育てをささえます

興味を持ったら、参加したいと思ったら、たのしそうだと思ったら、もっと知りたいと思ったら、手伝いたいと思ったら
すべてのお問い合わせは、

《特定非営利活動法人 松阪子どもNPOセンター》

住所 〒515-0043 松阪市下村町1115 Tel・Fax 0598-20-1511

ホームページ <http://www.mknpo.jp/> eメール info@mknpo.jp 月～金 10:00～17:00

特定非営利活動法人松阪子どもNPOセンター

Autumn 第108号

こども21

発行 2010年10月1日

〒515-0043 松阪市下村町1115

TEL・FAX 0598-20-1511

ホームページ <http://www.mknpo.jp/>

eメール info@mknpo.jp

子どもたちがのびやかで豊かな「子ども時代」をすごすために



ニッセイ財団からの助成金で
ひろばも充実しました



8月25日・26日に行なわれた人形劇「あなたが生まれるまで」
には、子どもから大人まで約380名の方に参加いただきました。飯
南会場では来る人来る人が顔見知りで、いたる所で話す輪ができ子
どもへのまなざしも暖かく、地域のつながりを感じました。

この劇を観ると、子どもが生まれてきたそのことだけで、素晴ら
しいこと、すごいことと再確認します。そして子どもには命や成長
を大人に守られながら育つ権利があります。しかし、毎日流れる心
痛むニュースを聞く時、その根本が保障されていない現実があるこ
とを知ります。ニュースは氷山の一角に過ぎず、虐待はもっと身近
なところで起きていますし、虐待まではいかななくても、子育て最中
の大変な時期には「もう、いや！」となる瞬間はあります。

そんな時、私たちは何ができるのでしょうか。子どもの命を守るこ
とは大前提として、子育てしている人が孤立せず、いつでも誰かに
相談できるよう、行政・民間・個人がそれぞれの立場でサポートす
ることが大切だと考えます。そしてそれをつないでいくのが私たち
NPOの役割だと思っています。飯南で感じた暖かい空気がそれぞれ
の地域で広がっていけばと思います。

理事長 塩谷 明美

特集 人形劇「あなたが生まれるまで」から気づくこととこれから

第1回 飯南・飯高地域公演 8月25日(水)午後7時~8時15分 会場 飯南産業文化センター 参加人数(197名)

第2回 嬉野・三雲地域公演 8月26日(木)午後7時~8時15分 会場 中川コミュニティセンター 参加人数(174名)

(特)松阪子どもNPOセンターでは、行政・社協・市民団体などと「子どもの権利を考える市民委員会」をひらいています。子どもの権利条例づくりへむけて、この人形劇をひろく一般の方に見ていただき、権利について考えてもらうきっかけにしようとして取り組みました。それぞれの地域の特色も生かした条例づくりにつなげていけるように、飯南・飯高地域と、嬉野・三雲地域で公演の実行委員会を立ち上げ、話し合いを重ね、参加者の輪を広げていきました。公演のあとアンケートをとり、事後交流会を開きました。

ただの人形劇じゃ
なかったニヤン

劇を見た方のアンケートから

「劇で心に残った言葉・場面はなにか」という問いにたくさんの方が「うまれてきて、いいの?」「うまれてたい!」という赤ちゃんのセリフをあげ、生まれたシーン、を「うまれてよかった。」と受け止めていました。

思えば、誰でもみんな、こんなふうに生まれてきたのですよね。そんなふうに生まれてきた「今の自分」について「自分のことが好きですか」という問いには「好き」と答えたくさんの子どもに対して、おとなは「自分が嫌い」「嫌いなどところもある」と今の自分を好きと言えない人が多く、「がんばってるから好き」「〇〇してるから好き」と、条件つきで自分をほめる人が数多くみられました。



同時上演
『くらいくらい、ちょっとスキ!』
合同企画 ★くわえばべっとステージ
★人形芝居ひつじのキャンパー

お腹の中の子どもの成長は、とってもふしぎ。命のエネルギーにみちています。生命のふしぎと、命の大切さが、コミカルでファンタジックな人形劇として演じられます。

劇を見たあとに交流会をひらきました

嬉野・三雲地域事後交流会 9月8日(水)
飯南・飯高地域事後交流会 9月15日(水)

公演から日を変えて、それぞれの地域で参加者を募って話しあう機会を持ちました。「うまれてきてよかった。」という無条件のよろこびを感じたときから時を重ねて、子育てのたいへんさに余裕がなかったり、親子関係の複雑さにくじけたりしている「親」になり、今の自分のことを「好き」と言えない自分や、条件や目標がクリアできることを自分にも子どもにも期待しがちな自分に、気づきました。

ただ生まれたことだけで、「うまれてきてよかった。」と、生まれた子どもも、その親もあんなに満ち足りていたはずなのに、いつからか生まれただけではなにかが物足りない自分になっていたのでしょうか。

今のありのままの自分を、立ちどまって振り返るきっかけに、この劇はなったようです。あなたは自分が好きですか? ありのままの子どもたちを受けとめていますか? ぜひ、劇を見て感じてください。

第3回松阪市街地域公演もお楽しみに。市街地域実行委員も、募集しています。

第3回 松阪市街地域公演 2月19日(土)PM2:00~

会場 : 松阪市立殿町中学校武道場

お問い合わせは (特)松阪子どもNPOセンター

☎ 0598-20-1511

無料